

めいわ かわら版



伊藤 瑠里

ワークスつばさ

障がい福祉サービス多機能事業所ワークスつばさで、パンの製造販売に携わりながら、障がいをもつ方々が社会に出るための支援を行う伊藤瑠里さん。2019年4月に社会福祉法人明和会の一員となりました。常にお客様や就労支援利用者の方々を大切に思い、懸命に仕事へと向き合う伊藤さんに、これまでの思い出や今後の目標を伺います。

入社からの経歴や、現在の業務内容について教えてください。

2019年9月に現在のワークスつばさの生活支援員として、車の部品や網戸に張る網の内職作業支援をしていました。パンの製造部門へ異動したのは2020年4月。現在は就労支援を受ける利用者の皆さんとともに、パンと焼き菓子それぞれ20種類の製造に携わっています。1日に製造する数量は数百個ほど。こうした業務と並行して、利用者の方々が社会に出ていくための支援も行っています。

引き続き目指していくつもりです。

強い責任感で困難を乗り越え、成長してきた伊藤さん。お客様と利用者の方々の笑顔にするため、これからもパン作りの場で奮闘していきます。

——これまでの中で、思い出に残るお仕事はありましたか。

保育園から依頼を受けて作った、クリスマス向けの焼き菓子セットの仕事です。クリスマス仕様のラッピングやデコレーションも考えました。注文を受けた商品は、マドレーヌやクッキーの詰め合わせを全部で200セット。クッキーだけで800枚は型抜きしました。

クッキー生地は、焼きムラを防ぎ、規格外の商品を作らないために厚みを均等にしなければなりません。作り始めた当初は、その手法を皆さんにうまく伝えられませんでした。そこで活用したのが、厚みの高さに印をつけた爪楊枝。生地に爪楊枝を立て、印の高さと厚みを見比べても、厚み作業を加えると、皆が均一の厚みで作れるようになったのです。最後の一つをラッピングし終えたときの達成感と安堵感は、今も忘れられません。来年も良い年になりそうですね」と、一緒に喜び合ったことも印象に残っています。

利用者の皆さんが成長していく姿は、私にとって何よりのやりがいです。専門的な技術を身につけるばか

りでなく、こちらが頼む前に必要なものを渡してくれたり、ゴミを自主的にまとめて捨ててくれたりする。こうしたさりげない気配りが見受けられるようになったときにも、嬉しさを感じます。

——反対に、辛かった経験はありますか。

パンの製造に異動して3か月ほど経った頃がとて大変でした。私ともう1人の職員2名で利用者の皆さん4名を支援していましたが、職員1名の急な退職により、私1人での支援となってしまったのです。週に3回、保育園に納品するパンは600個。パンの製造に慣れなまま、滞りなくこれらの作業を行わなければなりません。遅延はもとより、異物の混入や計量の間違いもあってはならず、プレッシャーに押しつぶされそうになりました。

普段から悩みを1人で抱え込んでしまいがちなため、最初は周囲に助けを頼むのも躊躇していたほど。それでも手に負えなければ販売の方に手伝っていたら、何とか乗り越えられたのです。パンの仕上がりがう

まくいかないときは、製造経験のある先輩に相談。発酵時間や仕上げの卵液の量を調整するなど改善を施していき、少しずつパン製造に慣れていきました。

——休日はどうのように過ごしているのでしょうか。

趣味のフットサルが良い息抜きになるのですが、最近忙しく、なかなか練習に参加できていません。自宅で映画を見たり、漫画を読んだり。料理もします。よく作るのは豆腐ハンバーグなど、健康にも配慮したヘルシーなメニュー。学生時代は食品関係について学び、栄養士の資格も取得しているので、こうした経験をパン製造に少しでも活かしていきたいと思っています。

——最後に、今後の意気込みや目標をお願いします。

安全で安心できる商品を提供しながら、お客様に喜んでいただける新商品を考えていきたいと思っています。利用者の方々がやりがいや生きがいをもって働ける職場環境も、引



▲納涼祭準備

▲納涼温泉

<企業情報>
社会福祉法人明和会
■法人認可：1966年11月
■職員数：352人
※2021年9月時点
■問い合わせ先：0538-42-3228



この1年を 漢字一文字で振り返る

様々なことがあった2021年。皆さんはどのように過ごしましたか？漢字一文字で表してもらいました！



明和第二保育園
保育士
すずき なな
鈴木奈菜さん



仕事編
どんなときも笑顔で頑張れた1年だったからです。大変なことも多い仕事ですが、子どもたちや職員の支えがあり楽しく常に笑顔で保育を頑張ることができました。

プライベート編

結婚式を行ったことが印象に残っているからです。コロナ禍で家族のみの小さな結婚式となりましたが、無事に行えて、とても幸せな年になりました。



明和苑
介護員
すずき れな
鈴木玲奈さん



仕事編
何もかも全てにおいて忍耐の1年だったと思います。仕事柄、絶対に感染してはならないというプレッシャーの中、自分を含め周りの皆が意識し頑張ってきたと思います。

プライベート編

毎年行っていた両親、家族との旅行にここ2年行けていないので、また気兼ねなく旅行に行ける日が来ることを願って……。



可睡寮
支援員
はまや みほこ
濱屋みほ子さん



仕事編
長く続いているコロナ禍の中でも、施設内では利用者職員が共に笑顔になるような行事を計画してきた1年でした。

プライベート編

コロナ禍前には当たり前だったこと(友人たちとの旅行、食事)ができなくなり、色々なことを我慢してきた1年でした。早く以前のような生活に戻れることを願っています。



めいわ月見保育園
調理員
かんべ さとみ
神戸さとみさん



仕事編
コロナにより環境の安全を確保するため、人との接触をなるべく避けました。体温管理、手洗い、黙食、行動範囲の抑制等守らなければいけないことがたくさんありました。

プライベート編

今年度、子どもよりも若い子と一緒に働いています。若い子に習うこともあり、助け合って仕事ができていると思っています。皆の気持ちも一緒だと信じて！



めいわ可睡保育園
調理員
すずき あすか
鈴木亜沙香さん



仕事編
可睡保育園で働きながら、昨年度調理師免許を取得し、今年度から正規職員として働かせていただいています。新しく仕事を覚えるなど、新しいことにチャレンジした年なので「新」です！

プライベート編

キャンプが趣味で、暇ができれば家族で山に行き、自然に癒されました。



障害者就業・生活支援センターラック
就業支援ワーカー
ふくだ みちこ
福田美千彦さん



仕事編
コロナの影響で休日が増え自宅待機が多くなり、気持ちが落ち込み、生活や将来に対して不安が募ったりする方々を励まし続けました。

プライベート編

コロナ禍の影響で、家族が休日に出かけることが少なくなり、自宅にいる日が多く、話し合う機会が増えました。



ワークスつばさ
生活支援員
すずき まさゆき
鈴木雅之さん



仕事編
コロナ禍で、色々厳しい状況にある中まわりに支えられて、ときには自分も支えになるような1年でした。

プライベート編

憂いで始まった1年が、時間の経過とともに喜びに変わりました。今は歓喜を感じるまでになりました。ありがとう！



あきは寮
生活支援員
まつうら たくや
松浦拓也さん



仕事編
寮内での所属グループが変わりました。以前のグループでは歩行活動が主でしたが、現在は利用者と共に農作業を行っており業務に変化がある年でした。

プライベート編

今年から実家を出てアパート暮らしを始めました。生活環境が変わり、大変なことも多いですが、初めての経験も多く、アパート暮らしを楽しんでいます。



明和からす森
介護職員
かとう のりこ
加藤宜子さん



仕事編
職場内がいろいろな意味で激しい1年だったからです。仕事自体も、職員も、仕事環境、仕事内容、人間関係など……。いろいろな意味で仕事の日、毎日が刺激的でした。

プライベート編

時間の使い方について、いろいろと考えさせられた1年だったからです。



特養介護
やまぐち あけみ
山口朱美さん



仕事編
暑さやマスクをしておの息苦しさにも耐え忍び、仲間と共に業務に邁進してきた1年でした。

プライベート編

コロナ禍、読み聞かせボランティアの活動が制限され、各施設へ行けなくなったことです。

